

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：大柳自治会

開催場所：大柳公民館

開催日時：平成 29 年 2 月 8 日（水）19 時 00 分～20 時 36 分

参加者：自治会側【地域住民の方 38 人】

市側【染谷市長、眞部危機管理部長、今村こども未来部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、小玉初倉公民館長】

内 容

① 藤田自治会長あいさつ

- ・市長と面と向かって話し合う機会はなかなかないので、忌憚のないご意見をいただきたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・市内全ての 68 自治会をまわっている。本日 59 回目の車座トーク。最後は地元の初倉で終わりたいと思い 3 月末まで回る。

■平成 29 年度の当初予算等について

- ・本日、平成 29 年度当初予算について発表をしたため、予算の話ができるようになった。
- ・島田市の平成 29 年度一般会計予算は 366 億 1 千万円。これは、平成 20 年度以降で 3 番目に予算規模が大きい。大きくなった理由は、医療・介護・福祉費の伸びや新病院の建設、新東名の金谷インターチェンジ周辺の土地利用を本格的に進めていくため。
- ・平成 29 年度は、子ども達をより良い環境で育てるための子育て支援や教育について一層充実を図っていきたい。
- ・子どもから高齢者まで健康で暮らせる地域をつくる。特に健康長寿、元気で生き生きと暮らせる施策をしなければならない。
- ・4 月から川根温泉で始まるメタンガス発電等の再生可能エネルギーの電気量は、平成 29 年度末に市内全域で使用する電気量の 38%を賄えるまちになる。国の計画では、2030 年に 30%を目標としている中、島田市は平成 29 年度末には大きく越える。全国有数の再生可能エネルギーのまちになったので、環境施策を実施していきたいと思っている。
- ・人の命を守れるまちにするために危機管理部をつくり、危機管理官を配置し、様々な具体的な政策を実施している。
- ・初倉地域は既に整備されているが、光ファイバー網（高速通信網）が市内北部地域には未整備だった。そこにお住まいの方から強い要望があり事業化する。
- ・県外から転入する方に最大 130 万円の補助をしてきたが、人口が減ってくると空き家が多くなってきた。新しい家を建ててもらうことも大切だが、中古

住宅を買ってリフォームして住んでくれる方には、最大 200 万円の補助を出す事業を平成 29 年度から始める。

- ・昭和 56 年より前に建てた家の耐震診断は無料。平成 29 年 1 月から 1 年間は特に上乘せしているが、耐震性が無い場合の補強工事について、高齢者 95 万円、その他 75 万円の補助金が出る。平均的な耐震補強工事費は約 120 万円という統計がある。少し自己負担をしてもらえれば耐震補強工事ができる。安心して家に住んでもらうための補助金を交付している。

- ・平成 28 年度は途中だが、様々な移住定住施策により、島田市は県内で 3 番目に移住者が多いまち。(1 位小山町、2 位静岡市。)

- ・平成 29 年度は子どもの貧困対策実態調査を実施したい。国は、貧困に該当する子どもの数が 6 人に 1 人と言っているが、市内の実態調査をしてこなかった。就学援助や生活保護等によりおよその人数は把握しているが、実態調査をして、今後どのような施策が必要なのか検討したい。

- ・子ども食堂というものを聞いたことがあると思うが、島田のような小さなまちでは、低所得者用の子ども食堂は、他人の目が気になり利用するのは難しいと思う。島田は、島田のやり方をしていかなければならない。高齢者も含めて独りで食事をしている人が安価で温かい食事を皆で食べるような事業が、地域で行われたら嬉しい。調査結果を地域に提供するので、地域の皆さんと一緒に課題を考えていきたい。

- ・田代の郷(温泉)に陸上競技場の土地がある。整備計画を凍結していたが、今後どのように使うか検討し、地元の方々とワークショップを重ねてきた。そこに、高齢者から子どもまで集えるようなスポーツレクリエーション広場を整備する。第 1 期工事として、大型遊具を置いて遊びの広場から整備をしていきたいと思う。以後、スポーツ広場、憩いの芝生広場等を整備しながら、全体としてスポーツとレクリエーションの場としていく方向性が決まった。

- ・平成 29 年度は、市税収入が固定資産税も法人所得税も上がって過去最高となる見込み。昨年度に比べて約 2 億円の税収増。

- ・一方、島田は高齢化していくため、2010 年と 2020 年を比較すると、労働人口が減るため約 8 億円の税収減の試算がある。

- ・平成 27 年度までは、旧島田市分と旧金谷町分の 2 市町分の地方交付税(加算額)を貰っていたが、平成 28 年度から 5 年かけて段階的に減額されていく。この減額される金額が 12 億円。合わせると 20 億円の税収が減る。

- ・健全な財政運営のために、4 年間で約 30 億円の起債残高(借金)を減らしてきた。平成 29 年度末には初の 300 億円台になる。

- ・新病院建設、インター周辺の土地利用、学校の老朽化等、これから予算を必要とする事業が控えている。先月は市役所周辺(市役所・プラザおおり・市民会館等)の土地利用の検討チームを立ち上げたところ。しっかりと選択をして賢く使う市政運営をしたいと思っている。

- ・ICT(情報通信技術)で人を呼び込む施策ということで、藤枝市と共同で「ICT推進プロジェクト事業」を実施する。島田市は 5 年間で約 4 億円の予算を付けている。

- ・平成 29 年度は、初倉をモデルに実施したいと思っている。例えば、初倉の小中学校に ALT の先生を置いて特に英語教育に力を入れたり、タブレットを配置して授業をすることを広めていく、人型ロボット「ペッパー君」を学校等に出張させてプログラムの勉強をしてもらおう。4 月から市役所受付に島田型にカスタマイズした人型ロボットを導入する予定。

- ・島田にクラウドソーシングを浸透させるための予算を付けた。子育て中の保護者や定年退職した方ができるクラウドソーシングワーカーや指導者の養成をしていく。ICTを導入する企業に専門家を派遣することもする。ICTのエキスパートを養成するため、プログラミング等を専門的に教えるような講

座も実施していく。ICT教育と特色ある事業を展開したい。

・学校教育の支援員を64人、教育センター等も合わせると74人の支援員を各小中学校に配置している。できるだけ増やしていきたいと思っているが、支援員となる人を探さなければならない。課題がある子どもが増えたし、35人学級ということで、学校現場は人を欲しがっているが、県は予算も人も出してくれない。できるだけ支援員を置いて現場に対応できるようにしたいと思っている。

#### ■新病院建設事業について

- ・地上7階建（一部ボイラー室8階建）、屋上にドクターヘリ用の発着場を整備予定。
- ・病床数445床、駐車場は約960台。1，2階に外来と検査室を配置。
- ・現在の救急棟は、2階は感染症の病床、1階は透析センターにする計画。既存の建物では救急棟と健診センターが残る。
- ・新病院ができれば、現病院は解体し駐車場を整備する。
- ・基本設計が完了すると詳細な事業費をお知らせできるが、基本計画の段階で247億円。東京オリンピックに伴う人件費や資材高騰が懸念されたが、247億円を大きく越えることは想定していない。

#### ■市役所周辺整備について

- ・新病院の建設費用に目処がついてきたので、市役所と市民会館の機能をどうするのか検討に入ったところ。
- ・市役所は築54年目になる。耐震性能はあるが壁が一部崩れるかもしれないレベル。手狭になっているので考えなければならない。併せて市民会館の機能をどうするのかも大事なこと。
- ・一方、プラザおおりは築35年。長寿命化をすればまだ30年使える。市民会館を造った場合、プラザおおりと機能が重複するため、どのようにすべきか至急検討して方向性を出していきたい。何処に、どんな機能を持っていくのかということだが、何より決めなければならないのは、いつ造るのかということ。新病院建設と同時期の平成32年までに完成すれば合併特例債が使える。その時期を過ぎると、新たな補助金等を探して整備しなければならない。

#### ■新東名金谷インター周辺・金谷中学校跡地の整備について

- ・新東名金谷インター周辺の開発事業は、84ヘクタールの土地を内陸フロンティアの指定をした。農振除外が難しく心配したが、4月頃までには都市的土地利用が認められる目処がついた。平成29年度は約7億円の予算で基盤整備を行い、これから企業誘致や賑わい交流拠点、新東名下の駐車場を整備していきたいと思っている。
- ・金谷中学校跡地も廃校から40年が経過。一昨年アイデアコンペを実施、昨年はマーケットサウンディングを実施して有識者から事業のコンセプト「健康・癒し・食」というテーマをいただき、民間の皆さんに良い提案をいただけないかということで、今年度は事業提案に入っていく段階。

**■大柳自治会の人口、世帯について**

・大柳自治会の1月31日現在の世帯数は686世帯、人口は1,867人で、高齢者人口（65歳以上）は479人、高齢化率は25.7%となっている。市の平均が29.6%。4ポイント低いのが、市内でも4割、5割の地域もある。大柳は働き盛りの人が多く住む土地といえる。15歳以下の人口281人で人口に占める割合は15.1%となっている。市の平均は13.7%であるので、子どもの数が多い。学校も近いし、保育園や幼稚園があるため住むには良い環境と言える。初倉の中でも安定した地域であると思う。

**■初倉地域の取り組みについて**

- ・色尾大柳線は、地元の皆様に事業説明会をさせていただき、平成29年度は用地交渉にも入っていく。説明をしながら、個別に、丁寧に実施していきたい。平成31年、32年頃、色尾大柳線と谷口中河線の交差する場所に島田市初のラウンドアバウト（信号機の無い環状交差点）を整備していく予定である。色尾大柳線は、現在の計画は大井川の土手まで行かないが、最終的には土手まで出る道路にしたいと思う。
- ・南原から牧之原市坂部に至る空港アクセス道路の用地測量が始まっている。トンネルではなく、山を越える道路になる。開通すると牧之原市から初倉、藤枝に至る交通結節点となると思う。
- ・中河に東中瀬工業団地を整備したい。地権者の理解が得られないと全部できないが、進出してきた会社はあるので半分だけでも整備したい。慎重に進めていかなければならないと考えている。
- ・初倉地域は子どもの数が増えている地域。市内で子どもが増えているのは六合と初倉だけ。交通結節点になるということは、ますます外から人が入ってくる地域になると思っている。
- ・島田吉田バイパスのナフコから静岡銀行までの沿線について、開発ができないのか問われるが、農地整理をして受益地になっている。事業完了から8年間は動かさない。はばたき橋から井口交差点までの沿道も同様に開発できない。
- ・昨年、初倉小学校は耐震補強工事を実施した。今後、南部学校給食センターの空調や機器の更新を順次実施していく。
- ・初倉でここ数年課題となっているが、みどり幼稚園跡地をどうするのか。地区の皆さんに年数回草刈をさせていただいている。地盤が弱く高層建築物を建てられる土地ではない。跡地の使い道については、ただ売るのではなく、地元の皆さんと協議をさせていただきたいが、まだ決まっていない。
- ・跡地は県道に面しているが、県道と跡地の間に民有地があるため繋がっていない。県道と接続するには民有地を購入する必要があるが、行政は使い道が決まっていない土地を買うことができない。将来のために買っておくことができない。
- ・地元からは、道の駅や公園が欲しいという話をいただいている。道の駅は、金中跡地の使い方や金谷インター周辺の賑わい交流拠点にマルシェができるため、初倉の土地に何が良いのか併せて考えていかなければならない。
- ・初倉のメインストリートになるため、仮定の話として郵便局移転や、農協の支店を統合して移転する等の話がこれから出てくるかもしれない。周りは農

地なので、土地を大きくすることはできない。

・人口減少、少子高齢社会の時代になると、行政に任せておけば何とかなる時代でなくなった。行政も規制緩和等をしながらか、地域の皆さんが活動しやすいようにお手伝いをする時代になった。国も規制緩和の方向。例えば、蓬萊橋には観光施設が無いことが課題だった。国土交通省の規制緩和により、平成29年秋にはお休み処・物品販売所・新しいトイレができる。河川敷に駐車場や花壇等も順次整備していく。大井川の河川敷は、蓬萊橋周辺だけでなく、博物館前や蓬萊橋右岸側（初倉側）も整備できるようになる。

・初倉には消防署の出張所があるが、平成28年4月から3市2町の広域消防となった。通信指令基地が静岡市に統合されたことにより、現場の人員を増員し、専門的な職員を配置することができるようになった。昨年、初倉で同時時間帯に複数の火災が発生したとき、吉田町からも応援が来てくれた。今までは要請しないと来てくれなかったが、今は静岡市消防本部が緊急出動を管理している。初倉出張所の位置が、牧之原市や吉田町に対して重要な場所となっている。

#### ■待機児童対策について

・子育て支援で一番力を入れているのは、待機児童ゼロを目指すこと。平成29年秋、向谷に0歳から2歳で70人定員の保育園ができる。他に小規模施設ができるので、合計80人強の定員増となる。3つの幼稚園が認定こども園化する予定。これも合わせると百数十人の定員増となるため、平成30年には待機児童ゼロを目指したい。

・保育所の待機児童を解決しても、放課後児童クラブも昔より利用児童が増え、6年生まで対象となって施設が足りない。学校施設は優先的に利用できるよう依頼している。平成29年4月から、全児童クラブが18時30分まで預かるようになる。それでも施設が足りなくて、新たに造る児童クラブや、施設を拡充して定員を増やすところもある。六合では高齢者施設が放課後児童クラブを実施する。月坂では保育園が放課後児童クラブを実施する。

・子どもの環境整備に力を尽くしていきたいと思う。誰もが安心して暮らせるまちをつくっていかなければならない。

#### ■地域での取り組みについて

・ふるさと納税について、「焼津市は儲かっている。島田も頑張れ」と言われる。納税額が全国トップレベルの自治体は、魚と牛肉のあるところ。島田市は、島田で採れたものを返礼品としている。島田市民が他市町にふるさと納税を行っている場合、島田の税金が控除されるため、他自治体に多く寄附されると島田市は税収が減っていく。全国的には、ふるさと納税で赤字になっている自治体もある。島田市は黒字だが、利益は1割程度。本当は、遠く離れた故郷等を応援するための制度のはずが、ネットショッピングとして使われている。本筋から外れてきたので、いつまで制度が続くかわからない。国は毎年、適正に扱うように通達を出している。

・年金暮らしの方、独り暮らしの方が増えている。独り暮らしの方は、登録すれば週1回市から安否確認の電話をしている。また、身に付けた緊急通報のボタンを押してもらえれば、30分以内に人が行く体制を取っている。

- ・地域の目があることが、独り暮らしの方にとって掛け替えのない拠り所ですし、行政もやれることはやっていくが、今後も高齢者は増えるので、地域の中でどのような支え合いができるのか皆さんにも考えてほしい。
- ・六合地域の道悦島地区社協の取り組みとして、1時間500円の利用券、ゴミ出し1回150円券を作成して生活支援の手伝いをしている。
- ・色々な形で各地域が自分達でできることを考えはじめている。大柳は、居場所づくり事業やふれあい事業、子育て支援きしゃぽっぽも実施している。地域の絆が強いのと思っている。地域の絆の強さが、地域の安心安全な暮らしを生む。島田には、自分の住んでいる所を少しでも良くしたいと思ってくれる人がたくさんいる。このような人が住んでいる所は必ず変わっていく。10年後、初倉に住んで良かったと思っただけのまちをつくらせていきたいと思う。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■河川の転落防止対策について</p> <p>みどり認定こども園西側に幅1.45m、深さ0.85mの河川（開渠）がある。フェンスが無いので、通学中の小学生が飛び越えて危険である。何度も注意しているが心配。数年前に車両が数台脱輪したことがあり、市が柱とロープを設置してくれたがロープも古くなってきた。子どもたちがケガをする前に、フェンス等の安全対策の検討をお願いする。</p>	<p>●担当職員に現場を見させる。その状況で対応をさせていただく。【検討事項1】</p>
2-1	<p>■同報無線について</p> <p>同報無線が、雨天のとき聞き取れない。対応について伺いたい。</p>	<p>●以前もこの地区から話を聞いた。その後、音量や向き等を調査した。確かに雨天等で聞こえ難いことがあると思う。現在、同報無線の自動電話応答サービス（37-5600）を実施している。電話で聞くことができる。</p> <p>また、QRコードで登録すると、同報無線の情報が携帯電話にメール配信されるサービスも実施している。</p> <p>本当に緊急のときは、エリアメールで自動的に連絡をする方法を取っている。緊急時は各組長に電話させていただき、地域で電話連絡網を流してもらうこともある。家の造りが良くなり、遮音性能が高くなっていることもある。</p> <p>同報無線が聞こえ難い場所は、職員に確かめさせているので、危機管理課に連絡をしてください。</p>

<p>2-2</p>	<p>■携帯電話やメールを使用していない。自宅に居ることが多くて聞こえ難い。旧金谷町地域は、個別受信機が整備されている。同様の方法が取れないか。</p>	<p>(危機管理部長から)</p> <p>●将来的には、そのようにしたいと思っている。</p> <p>金谷地域は、旧金谷町の時代に各家庭に個別受信機を設置しており、それを引き継いでいる。</p> <p>自治会長宅や避難所等には個別受信機を設置している。</p> <p>現在のアナログから、デジタル機器に換える検討をしている。その時には、各家庭にお伝えできる仕組みを作りたいと思う。当面、同報無線が聞こえなければ、自動電話応答サービスで確認していただきたい。</p> <p>(危機管理課 追記)</p> <p>●市民に災害情報を伝えるための同報系防災行政無線（同報無線）のほか、以下の方法でお伝えします。</p> <p>(1) 携帯電話へのメール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「緊急速報メール（エリアメール）」 （登録不要、市内滞在の携帯電話に配信される。生命の危険に係わる情報のみ配信）</li> <li>○市民向け防災メール配信サービス（事前登録が必要、市内にいなくても受信可能）</li> </ul> <p>(2) 自治会を通じたの連絡</p> <p>気象警報発令時には「自治会長への連絡表」に基づき、該当する地域の自治会長に電話連絡します。自主防災会長へは連絡しません。情報が自治会員にスムーズに伝わるよう連絡体制の整備をお願いします。</p> <p>(3) 消防車や市の広報車による放送</p> <p>(4) 島田市ホームページ</p> <p>(5) ツイッター</p> <p>(6) 危機管理課フェイスブック「防人（まもりびと）しまだ」</p> <p>また、テレビ、ラジオでも情報は入手できるので、様々な情報入手方法</p>
------------	--	---

		を活用されたい。
3	<p>■大柳公園について</p> <p>色尾大柳線について、大井川堤防に合流するところに大柳公園がある。公園の一部が潰れると思うが、細長くて公園として相応しくない。車も停められず、公園として扱われていない現状。</p>	<p>●色尾大柳線は、堤防まで計画していない。手前の所までしか計画していない。堤防まで合流するときには、公園用地のあり方について地元の説明をしたいと思う。</p> <p>堤防の話が出たが、谷口橋を渡った桜橋のところに東町御請線を整備している。平成29年3月末までに開通する予定。開通すると六合駅に向う渋滞の緩和につながると期待している。</p> <p>六合駅も今年トイレを直しているが、今後も駅南ロータリー等を直して使いやすくしていく。</p>
4	<p>■東町御請線の歩道について</p> <p>桜橋付近に歩道が急にできたので、車で通過し難いと感じる。</p>	<p>●車が通り難い道路構造は問題があるので、仮歩道と思われる。道路が完成すれば違うと思う。東町御請線は、桜橋付近で勾配がある。</p>
5	<p>■色尾大柳線に係る移転について</p> <p>色尾大柳線の延長線上にある集荷場（全徳連）について、代替地が土地改良の時に出来ている。全徳連も市から話があればやっても良いが、話が無いと言われている。市担当には話をしている。</p>	<p>●確認する。【検討事項2】</p> <p>砂利採取して土地改良をした所は舗装道にして返しているが、以前の土地改良の道路は未舗装の所がある。路面の凸凹等、常に初倉地域ではこの話が出る。市で何とかしてくれないかと話がある。担当に確認したところ、計画はあるが1年に130mから150m程度しか舗装できないため、利用度の多い道路から順番に整備しているとのことだった。土地改良で未舗装道路の件については、あまりに凸凹が酷ければ担当課に話をしてくれれば、修繕する手伝いができると思う。</p> <p>これまでの「すぐやる係」を、4月から「すぐやる課」にする。課にして地元対応を一層丁寧にやっていくので、何かあれば連絡をいただければと思う。</p>
6	<p>■バイパス東光寺インターのフルインター化について</p> <p>計画はあるか。</p>	<p>●あります。</p> <p>東光寺インターは、東側にしか行けない片側インター。</p> <p>国1バイパスの4車線化は、現在工事をしている島田金谷バイパス、次の事業着手が藤枝バイパス。国土交通省に行く度に東光寺のフルインター化を要望している。現在フルインター化の工事をしているのが菊川インタ</p>

		<p>一。このインターも西側に行けなかった。東光寺もいずれはフルインター化すると思うが、国の予算次第でいつとは言えない。</p> <p>金谷から川根に至る道路が蛇行しており、真っ直ぐにする要望が川根地域から出ている。国県に要望しているが、国土交通省の道路関連予算が15年前は16兆円を市町に補助していたが、現在約5兆円。県も165億円だったものが46億円の7割カット。国県から社会資本整備の補助金が出ないと、市単独では整備できない事業が残り、新たな道路に着手するのが2、3年遅れてしまうことが現実に出てきている。国は、少ない予算の中で国直轄の高速道路を優先するため、地方の道路まで予算が潤沢に回らなくなった。昨年、社会資本整備総合交付金が、市の要望額の52%しか付かなかった。整備中の工事を途中で止めるわけにはいかないので続けるしかない。新規工事が先延ばしされる時代になった。</p> <p>現在、古くなってきたインフラをどのように安全に保つかということで、5年に1回の点検が義務付けられた。市が管理している1,152橋、市道1,180kmを定期的に点検して修繕していかなければならない。土木予算に占める割合は、新規事業6割、長寿命化に4割。長寿命化の予算が大きくなっている。</p> <p>高度成長期、島田にも多くの公共施設ができた。昭和58年は、小中学校6校とプラザおおりを造った。同時期に造ったものは、同時期に寿命がくる。これからどのように順番を付けて修繕や建替えていくのか大きな課題となった。道路、橋及び施設の長寿命化をしなければならぬし、学校施設も子どもがいるところの環境は整えていかなければならないため、しっかり整備していく。</p>
7	<p>■市民会館の建設について</p> <p>市民会館について、焼津、藤枝、島田で1つの施設があれば良いのではないかという提案を聞いたことがある。今回の話は、単独で島田市が市民会館を持つことになるのか。</p>	<p>●市民会館を建てるのか、市役所と合築になるのか、どのような形にするか検討中なので決めていない。市民会館を単独で建設しても、1,500人規模の施設が年間30日位しか使われていなかった。そのために数十億円負担することは難しい。そうした中で、市役所も老朽化して建て替えなけれ</p>

		<p>ばならなくなった。皆さんの意見を聞くと、1,500人の規模は不要だが、広い舞台があれば他所に行かなくても色々なことができるという意見がある。そのような機能を担保できるのか検討を始めた。類似施設のプラザおおりをどうするのかという話になる。総合的に話し合うため検討委員会を立ち上げた。市民会館跡地・市役所・プラザおおり等（計34,000㎡）を、今後どのような機能を持たせていくのかということについて検討を開始したところ。</p> <p>新病院を造るのも数十年に一度の整備、市役所も数十年に一度の整備で、今回偶々重なっている。次回も重なると大変であるため、どのようにすればよいか色々なことを考えていかなければならないと思う。空いている公共用地や公共建物に移転するのが一番だが、そのような場所が無いので検討する。市民会館跡地は、今後どのようになるかわからないため、簡易舗装をして駐車場、避難所やイベント広場として利用する。</p>
8	<p>■光通信の環境整備について</p> <p>川根地域等で光通信の環境整備を実施すると聞いた。大柳は光通信が整備されているのか。昨年、電気店で確認したところ、光通信が整備されていないと聞いた。</p>	<p>●初倉地域は整備されている。</p> <p>現在の未整備地区は、大長地域の一部、伊久身地域、川根地域等であるため、平成29年度に整備する。</p>
9	<p>■3市の公共施設の共有化について</p> <p>焼津市・藤枝市・島田市の公共施設の共有化の話し合いはしているのか。</p>	<p>●実施している。</p> <p>藤枝市は約600席の市民会館しかないため、焼津市の市民会館を活用している。連携して使える施設は使う。例えば、島田市の「こども館」は、利用者の7割が市外の人。他に無い施設がある所に3市の人が行っている。</p> <p>観光の売り込みも連携している。中部5市2町の連携中枢都市圏の話も進んでいる。志太3市の連携も進めていくため、毎年首長会議を実施して、次はどこから連携していくのか話し合いを重ねている。新たに3市が負担して造るとなると、国の補助金等が無いと難しいという現実があるが、お互いの良いところを補い合うという連携は進んでいると思う。一層進めていかなければならない。</p>

<p>10</p>	<p>■河川改修した河床について                  大柳公民館前に、砂利採取に伴う河川改修をして合流した所がある。河床の高さを間違えたのかわからないが、河川改修した河床と既存の河床では、河川改修した河床の方が深いので土砂が堆積する。                  水が流れているので掃除できない。担当部署には声が届いていると思うが、早く改修してほしい。</p>	<p>●土木の専門家として知見をもって整備しているので、担当に確認して自治会長に伝える。【検討事項3】</p>
-----------	--	---

※ 2-2 の回答以外、全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤意見交換会終了後の要望及び回答

番号	質問内容	市からの回答
1	<p>■転落防止対策について</p> <p>初倉地区は、かつて大雨に伴う湯日川の氾濫等により浸水被害を受けている。消防の初倉出張所に水難救助用のボートを配備し、迅速に対応する体制をとって欲しい。</p> <p>(今回の要望提出以前にも、同様の要望が出されていた。)</p>	<p>●湯日川の氾濫による被害は、かつては上流部でも発生しており、洪水に対するご懸念は理解できるところです。近年は、湯日川の改修や護岸整備、島田吉田線の新設や同周辺地区の圃場整備に伴う水路の整備や周辺河川の改修により、かつての洪水被害のリスクは相当程度軽減されています。</p> <p>現在の浸水想定(30年～50年に1回の大雨を想定)でも、消防の初倉出張所周辺一帯が浸水域となっていますが、一部地点が2m未満となっているものの、大半が50cm未満となっています。</p> <p>また、島田市の洪水の特性は、浸水時間が短い(通常半日程度であり、24時間以内に解消)ことです。</p> <p>これに対して、消防の水難救助体制は、島田消防署に水難救助の専門部隊があり、人員と装備を配備しています。また、消防広域化に伴い、必要に応じて吉田消防署からの救援もできるようになっています。尚、初倉出張所にボートだけ配備したとしても、これを運用する要員を同時に配備しないと活用できません。</p> <p>以上のことを踏まえ、ボートを使つての洪水・浸水からの救援活動の可能性がかなり低くなっていること、現在の配備体制においても、万が一の時に迅速に対応できることから、現段階で初倉出張所へのボート配備は必要性が低いと考えています。</p> <p>近年、ゲリラ豪雨の多発で、1時間雨量が80ミリを越える強い雨が、局所的に降り、河川の水位が一挙に上がることもありえますが、初倉地区の場合は、2階以上の高い所に退避することで、安全確保ができると考えています。また、大型台風が直撃するような場合は、早めに避難を促すことにしております。</p> <p>以上、ご理解の程、よろしくご願ひ致します。尚、本回答は、静岡市消防局担当課との調整のうえで回答しております。</p>

⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
1 検討事項 1	●担当職員に現場を見させる。その状況で対応をさせていただく。	<p>■現場を確認させていただきました。</p> <p>道路に面した開渠部分には、既設のデリネータとロープで落下防止と注意喚起をさせていただいておりますが、デリネータのぐらつきとロープの老朽化が見られましたので、早急に修繕対応を取らせていただきます。また、フェンスにつきましては、色尾大柳線の供用開始に伴う交通量の変化を見ながら対応させていただきたいと思いますので、経過観察とさせていただきます。</p>
5 検討事項 2	●確認する。	<p>■土地改良の時に出来ている代替地（大柳 1367・1368 番地）は現在、駐車場に利用されているようですが、登記地目は畑で青地農地となっています。また、今回、質問に出ている区間の整備については、現状（第2次総合計画前期計画）では平成32年度（西工区が完了後）からの整備を計画しています。</p> <p>なお、1月11日（水）夜、大柳公民館で開催した色尾大柳線、谷口中河線改良事業説明会の終了後、地元の方から話を伺いましたので、平成29年度早々に改めて事業説明を行いたいと考えています。</p>
10 検討事項 3	●土木の専門家として知見をもって整備しているので、担当に確認して自治会長に伝える。	<p>■平成27年度に市道色尾崎中河1号線交差部から上流部の市道谷口大柳線の排水路接続部において、周辺の浸水の防除、安全性の向上を図るために整備を実施しました。市道色尾崎中河1号線の道路横断部での勾配の不具合が要因で川の流れが悪くなり土砂が堆積するものと思われます。今後、道路横断暗渠及び下流部取り合い箇所の改修をするよう計画してまいります。</p>